

「わたし、定時で帰ります。」と働き方改革

福岡産業保健総合支援センター 産業保健相談員 入江正洋

「わたし、定時で帰ります。」(TBS系)が終わった。「面白かった」、「気持ち良かった」、「理想的で現実的ではない」、「つまらなかった」など、賛否両論の意見はあるが、現代の働き方に一石を投じるドラマとなったことは間違いないであろう。賛否両論が起こることを考慮してか、毎回社会問題化しているテーマを元に、それぞれの登場人物のポリシーや立場が紹介され、定時で帰ろうとする主人公の考えが揺れ動くさまがよく描かれていた。「働き方」は「生き方」でもあり、それが問われることがよく主張されていたものと思う。個人的には、全体的に少しあっさりし過ぎていた(特に終盤)ように思われ、一部放送されてはいたが、仕事を早く終わらせるための業務の効率化の手法をもっと紹介してほしかった。簡単に触れられていた社長など、経営者側の視点も見なかった。今回、過重労働が常態化していると思われるテレビ業界において、このドラマの制作では、働き方改革がなされていたようである。作り手が過重労働になっていたら、そもそもドラマの説得力がないためであろう。今後、このドラマを契機として、様々な業界で働き方の多様性が進むことを強く願う。